

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	東寺尾どろんこ保育園	種別：	認可保育園
代表者氏名：	施設長 宮入 講一	定員（利用人数）：	154（151）名
所在地：	230-0077 神奈川県横浜市鶴見区東寺尾1-35-5		
TEL：	045-642-8640	ホームページ：	https://www.doronko.jp/facilities/doronko-higashiterao/
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	2016年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人どろんこ会		
職員数	常勤職員： 23 名	非常勤職員：	15 名
専門職員	保育士 30 名	栄養士	2 名
	看護師 1 名	調理員	1 名
	事務員 1 名	保育補助	3 名
施設・設備の概要	居室数 保育室4室、調理室、事務室、育児相談室、地域交流室、一時保育室	設備等	園庭、エレベーター、駐車場、沐浴室、畑

③理念・基本方針

「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。
 10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。
 ”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。
 「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。

④施設・事業所の特徴的な取組

東寺尾どろんこ保育園は定員154名の認可保育所です。どろんこ会グループの中でも最大規模ともいえる当園は、広大な園庭や畑のほか、周囲には自然豊かな環境が広がっています。子どもたちは戸外活動をのびのびと楽しみ、子育て目標「センス・オブ・ワンダー」を体験しています。

どろんこ会グループ共通の保育理念「にんげん力。育てます。」のもと、異年齢保育や障がいのある子どもも共に過ごすインクルーシブ生活を実践し、すべての子どもが頼りあい、ぶつかりあい、手を差し伸べあって過ごすことを大切にしています。地域交流では、地域の商店などを毎週訪問する「商店街ツアー」、公園で地域の親子と交流する「青空保育」、3～5歳児が銭湯へ行く「銭湯でお風呂の日」のほか、「自然食堂」や「どろんこ祭り」など、地域と交流できる機会が多くあります。

食育は年間を通して行い、大根やほうれん草、なすなどの野菜を畑で栽培し、みんなで育てた野菜を食べるなど、食べることの喜びや意欲を育てています。また、「縁側給食」や自分たちで盛り付ける経験をし、異年齢とも関わりながら食事を楽しんでいきます。3～5歳児になると「就学前教育」を導入し、読み書き、計算、体操、音楽などの活動を就学に向けて取り入れています。

子どもたちは、どろんこ会グループならではの様々な取り組みを日々経験し、周囲と協力しながら自分で考え行動していけるように職員は支援しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年6月14日（契約日）～ 2024年3月6日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2019 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆園全体のレベルアップを図り、各種研修など人材育成に努めています

事業計画にもとづき、充実した園内外の教育・研修を実施しています。新任職員対象の「現場OJT研修」や「保育品質マニュアル研修」のほか、職員は「コンピテンシー研修」や「子育ての質を上げる会議」に参加し共通認識を図り、保育の課題把握に努めています。また、どろんこ会グループが運営する研修プログラムでは、幅広いテーマで動画による研修が行われ、得た知識は園会議で全職員に共有しています。主任や施設長も、毎月「主任会議」や「施設長会議」に参加し、保育の課題を把握しています。施設長は、職員の研修参加状況の確認やシフト調整を行うなど、職員が様々な研修に参加できるよう配慮し、園全体のレベルアップに努めています。

◆保育の質の向上に向けて、共通認識を持ちチームワークを高めています

職員は、各クラスでの話し合いを通じて日々の保育を振り返り、子ども一人ひとりの様子を共有して指導計画の評価を行っています。また、職員個々の自己評価に取り組み、「コンピテンシー自己採点」で自己チェックを毎月行うとともに、各職員が設定した年間目標をもとに自己評価を行っています。その上で年2回施設長と面談し、目標達成状況を確認します。年度末になると園全体の自己評価を作成し、保育実践の振り返りや職員の自己評価結果を反映させています。自己評価結果から把握した課題点は、次の指導計画に生かしています。保育の質の向上に向けて全職員で共通認識を持ち、チームワークを向上させながら、保育実践に取り組んでいます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

園の規模の大きさから日々に追われ、特に幼児クラスの養護面や伝達面の向上は、引き続きの課題であると考えています。運営面での評価は、法人と作り上げた「保育品質マニュアル」「運営マニュアル」が評価ポイントとして大きく感じました。

引き続き、事業計画で示している通り、マニュアル遵守を遂行していきます。第三者評価を通して課題が改めて明確になりましたが、同時に成果・園のストロングポイントにも気づくことができたと考えています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり